

I 調査結果概要

県内中小企業の経営状況

県内中小企業の景況感は、一部に足踏み感がみられるものの、持ち直しの動きがみられる。
先行きについては改善の動きがみられるものの、一部に不透明感がみられる。

- 経営者の景況感DIは、▲43.1と、前期比で2.1ポイント減少し、2期ぶりに悪化した。
業種別では、製造業は2期連続で悪化し、非製造業は2期ぶりに悪化した。
- 景況感の先行きDIは▲16.1と、前回調査比で4.2ポイント減少し、2期ぶりに悪化した。
- 売上げDI、資金繰りDI及び採算DIは2期ぶりに改善した。
- 設備投資の実施率は19.9%で、2期ぶりに減少した。
- 来期については、売上げDI、資金繰りDI及び採算DIは当期DIより改善する見通しである。
また、設備投資の実施率については当期実施率より減少する見通しとなっている。

注1) 数値については、小数点第2位を四捨五入して表記しているため、DIを算出すると±0.1ポイントの範囲で差異が生じることがある。

注2) 「前期」：令和6年1～3月期、「当期」：令和6年4～6月期、「来期(先行き)」：令和6年7～9月期

1 経営者の景況感と来期の見通しについて

自社業界の景況感DIは▲43.1（前期比▲2.1）となり、2期ぶりに悪化した。

業種別にみると、製造業は2期連続で悪化し、非製造業は2期ぶりに悪化した。

＜景況感DIの推移＞

	当期 (R6.4-6)	前期 (R6.1-3)	前年同期 (R5.4-6)
全体	▲43.1	▲41.0	▲39.0
製造業	▲50.8	▲46.9	▲40.5
非製造業	▲37.4	▲36.4	▲37.9

先行きについては、「良い方向に向かう」とみる企業は7.7%（前回調査(R6.1-3月)比▲1.8）、
「悪い方向に向かう」とみる企業は23.8%（前回調査比+2.4）だった。

先行きDIは▲16.1（前回調査比▲4.2）と、2期ぶりに悪化した。

＜来期の見通し＞

	良い方向に向かう	悪い方向に向かう	先行きDI (R6.7-9)
全体	7.7%	23.8%	▲16.1
製造業	8.7%	23.7%	▲15.0
非製造業	7.0%	23.9%	▲16.9

2 売上げについて

売上げD Iは▲18.5（前期比+7.3）となり、2期ぶりに改善した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の売上げD Iより改善する見通しである。

＜売上げD Iの推移＞

	当 期 (R6.4-6)	前 期 (R6.1-3)	前年同期 (R5.4-6)	来期見通し (R6.7-9)
全 体	▲18.5	▲25.8	▲14.8	▲12.8
製 造 業	▲23.4	▲28.1	▲14.4	▲11.2
非製造業	▲14.9	▲24.0	▲15.1	▲13.9

3 資金繰りについて

資金繰りD Iは▲18.5（前期比+4.7）となり、2期ぶりに改善した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに改善した。

来期については、製造業は当期の資金繰りD Iより改善し、非製造業は悪化する見通しである。

＜資金繰りD Iの推移＞

	当 期 (R6.4-6)	前 期 (R6.1-3)	前年同期 (R5.4-6)	来期見通し (R6.7-9)
全 体	▲18.5	▲23.2	▲18.1	▲17.8
製 造 業	▲23.5	▲26.0	▲21.7	▲17.5
非製造業	▲14.7	▲21.0	▲15.3	▲18.1

4 採算について

採算D Iは▲26.7（前期比+1.9）となり、2期ぶりに改善した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業は横ばい、非製造業は2期ぶりに改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の採算D Iより改善する見通しである。

＜採算D Iの推移＞

	当 期 (R6.4-6)	前 期 (R6.1-3)	前年同期 (R5.4-6)	来期見通し (R6.7-9)
全 体	▲26.7	▲28.5	▲26.7	▲21.3
製 造 業	▲30.4	▲30.5	▲28.4	▲18.5
非製造業	▲23.9	▲27.1	▲25.4	▲23.5

5 設備投資について

実施率は19.9%（前期比▲0.4）となり、2期ぶりに減少した。来期は減少する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに減少した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の実施率より減少する見通しである。

＜設備投資の実施率＞

	当 期 (R6. 4-6)	前 期 (R6. 1-3)	前年同期 (R5. 4-6)	来期見通し (R6. 7-9)
全 体	19.9%	20.3%	19.8%	18.2%
製 造 業	23.0%	23.2%	25.0%	22.0%
非製造業	17.7%	18.1%	15.7%	15.4%

6 ヒアリング調査の概況（詳しくはP13以降を御覧ください）

【現在の景況感】

- （一般機械器具）・中国経済の低迷に加え、日本国内での設備投資動向も弱く、不況である。
- （輸送用機械器具）・大手自動車メーカーの不正問題の影響で受注が減っており、不況である。
- （プラスチック製品）・大口の新規受注もあり、自社の景況感が良い。
- （食料品製造）・オリジナル商品の開発・提案が順調に進んでおり、これまでに比べ景況感が良い。
- （金属製品）・特に産業用機械に関連する分野の動きが弱く、業界全体として不況である。
- （百貨店）・足元の売上げは前年並みであり、景況感は普通である。
- （スーパー）・物価高のなかで他社との差別化が図れ、増収増益基調にある。景況感は好況である。
- （建設業）・マイナス金利解除による住宅ローン金利上昇の影響は特に無く、景況感は普通である。

【売上げ・採算】

- （銑鉄鋳物）・従来から十分に価格転嫁をできており、採算性はほとんど変わらない。
- （金属製品）・値上げをした分、一部で受注量が減っており、売上高はやや減少した。
- （食料品製造）・売上げや受注単価が変わらない中、人件費や諸経費が上昇し、採算性は悪くなった。
- （印刷業）・固定費が増える中、価格転嫁はしているが受注数量は減っており採算性は悪くなった。
- （スーパー）・客数、販売点数ともに前年同期比で伸びており、売上高は上がった。
- （情報サービス業）・利益率の高い大口のプロジェクトの受注により、採算性は良くなった。

【今後の見通し】

- （輸送用機械器具）・今後は大手以外の受注で採算の確保しやすいものの割合を高めていく方針である。
- （食料品製造）・大手スーパーは内製化を進めており、取引先の分散が図れない企業は厳しくなっていく。
- （印刷業）・来期は受注増加を見込んでおり、良い方向に向かうとみている。
- （商店街）・このまま物価高が続けば、消費が落ち込むのではないかと危惧している。
- （旅行業）・コストの上昇が続く中、今後も値上げを継続していけるかは不透明である。
- （運輸業）・賃上げなどの動きで消費行動が徐々に活性化され、良い方向に向かうことを期待している。
- （建設業）・建設コストの上昇や人手不足により、今後も企業の淘汰が進んでいくとみている。